

レポーター形式の授業について

教育心理・佐藤公代

<問題と目的>

今回はレポーターを決めて発表形式を主にして行ってみた。理由は、耐震工事のため後期から前期に移動させたので受講者が少ないだろうと予測をたてたからである。昨年行った「講義」-「グループ討論」-「各班からの講義内容報告とまとめ」という形式には無理がある。

仮説は次の通りである。

(1) 各自レポーターになることによって独自のやり方を考え出すであろう。

(2) 各自の体験をふまえて活発に討論が進むであろう。

<方法>

1) 期日：2008年7月15日(火)に調査した。

2) 対象者：2回生～4回生、計8名

3) 手続き：自作のアンケートで無記名により調査し分析した。

<結果と考察>

アンケートにそって分析結果を述べる。

(1) 講義+討論形式の授業に「非常に興味をもった」37.5%、「興味をもった」50%で87.5%の学生が興味をもっている。「非常に興味をもった」理由は、「そのテーマについて、他の人の意見を色々聞くことができ、視野を広げることができたから」「楽しい」「自分の言いたいことは言えたから」である。「興味をもった」理由は、「自分の意見を言えるから」「今までなかった形式でおもしろかった」である。「わからない」12.5%である。

(2) 講義+討論形式の授業は「非常に役

だった」12.5%、「役だった」87.5%で全員「役だった」と回答している。「役だった」理由は、「子どもにまつわる諸問題について様々なデータを見たり意見を聞けたりして、考えを深めることができたから」「考えを深めることができたと思う」「特に他の回生のかたの意見が新鮮のためになったと思います」「様々な意見が聞けた」「それぞれの意見を聞いて、自分の考えと比べることができた」である。

(3) ○○と子どもシリーズで第何回の所に興味をもったかについては以下の通りである。

{1} 1回目は児童期の諸問題について概説し、授業のやり方を説明した。

{2} 2回目「親と子ども」、3回目「教師と子ども」、4回目「授業と子ども」、14回目「対人関係と子ども」については講義形式とした。

{3} 2回目「親と子ども」12.5%、理由は、「家族観が人により様々だったから」である。

{4} 7回目「いじめと子ども」25%、理由は、「話し合ってもなかなか一つの意見にまとまることなく、難しい問題だと感じた」「教育的な観点と一人の人間としての観点の比較が面白かった」である。

{5} 8回目「体罰と子ども」12.5%、理由は、「さまざまな体罰に対する意見が聞けたのでよかったです」である。

{6} 9回目「思春期と子ども」25%、理由は、「子ども時代の考え方、気持ちには様々な形態があること」「自分の家族との関係を見直すことができたから」である。

{7} 11回目「遊びと子ども」12.5%、理由は、「もっと子どもに遊びを教えてやりたいと思った」である。

{8} 13回目「パソコン、テレビゲームと子ども」12.5%、理由は、「自分で

調べて、さらに知りたいと思うようになった」である。

{9} 5回目「塾と子ども」、6回目「不登校と子ども」、10回目「読書・漫画と子ども」、12回目「テレビと子ども」についてはレポーターが行った。

(4) レポーターになって「非常に良い」12.5%、「良い」75%、「わからない」12.5%で、87.5%の学生が「良い」と回答している。「非常に良い」理由は、「楽しかった」である。「良い」理由は、「一つの授業をつくる難しさがわかった」「調べているうちにそのテーマについて色々な見方や新しい発見があったから」「授業の進行が難しいことを知り、改善したいと感じたから」「主体的に授業に参加できる」「難しさがわかったから」「自分の興味のある内容について調べることができて楽しく学べた」である。「わからない」理由は、「段取りが悪かったです」である。

(5) レポーターになって調べ方に「非常に苦労した」12.5%、「苦労した」75%、「わからない」12.5%で、87.5%の学生が苦労している。「非常に苦労した」理由は、「データが見つげづらかった」である。「苦労した」理由は、「データがなかなか見つからなくて苦労した」「論点を見つけることに苦労した」「どの点にしばるか決めるのに時間がかかった」「望んだような資料が見つからなかったから」「なかなか自分の欲しい情報を見つけるのに時間がかかった」「インターネットでさがすのも大変で見つけたデータをまとめるのも大変だった」である。「わからない」理由は、「何についても良いというのに少し戸惑った」である。

(6) レポーターになって気をつけたことは「あった」87.5%、「わからない」12.5%である。「あった」理由は、「討論しやすい課題をさがそうとした」「みんなが関心を持てるような議論を考えるようにした」「一つの考えにしばられないように気をつけました」「話の進行役となり、なるべくまとめに力を入れるようにしてきました」「一方的な発表にならないよう

にする」「具体例があった方が理解し易いから」「長すぎず短すぎず」である。「わからない」理由は、「なるべくわかりやすく発表出来るように心がけた」である。

(7) 手作りお菓子、飲み物を出してもらって「非常に嬉しい」50%、「嬉しい」50%で全員が「嬉しい」と回答している。「非常に嬉しい」理由は、「おいしいし、リラックスできるから」「リラックスできて、話しやすくなったと思います」「とてもおいしかったです。ありがとうございます」である。「嬉しい」理由は、「気が楽」「毎回おいしくいただきました」である。

(8) 児童期の諸問題で得られたことは「大いにあった」12.5%、「あった」87.5%である。「大いにあった」理由は、「いろいろ考えさせられた」である。「あった」理由は、「教師を目指しているのだから色々な視点で子どもについての問題を見直せたのが勉強になった」「観点を多く得られたように思います」「現代を取り巻く問題と子どもに意外と多くの関連性があると感じました」「自分自身でいろいろ考えられるから」「意見交換をして他の人の考え方に触れることができたのが良かった」である。

以上から仮説(1)(2)は支持された。

今回は、少人数ということもあって、気楽に開示出来た授業だと思う。各自レポーターとしての自覚を持ち、調べられるだけ調べて全員に発言させるように授業を工夫していた。最後に提出するレポートも各自の興味にあわせてそれなりに書いている様子が見られた。レポートをする箇所は各自に自由に選ばせたので、それも動機づけになって自主的・創造的にできたのかも知れない。心理専修生以外の学生もいたのでバラティに富んで良かったと思う。

平成21年度もこの方式でやってみようと思う。やりたいと思っても平成21年度で定年なので「飛ぶ鳥後を濁さず」有終の美を飾りたいものである。